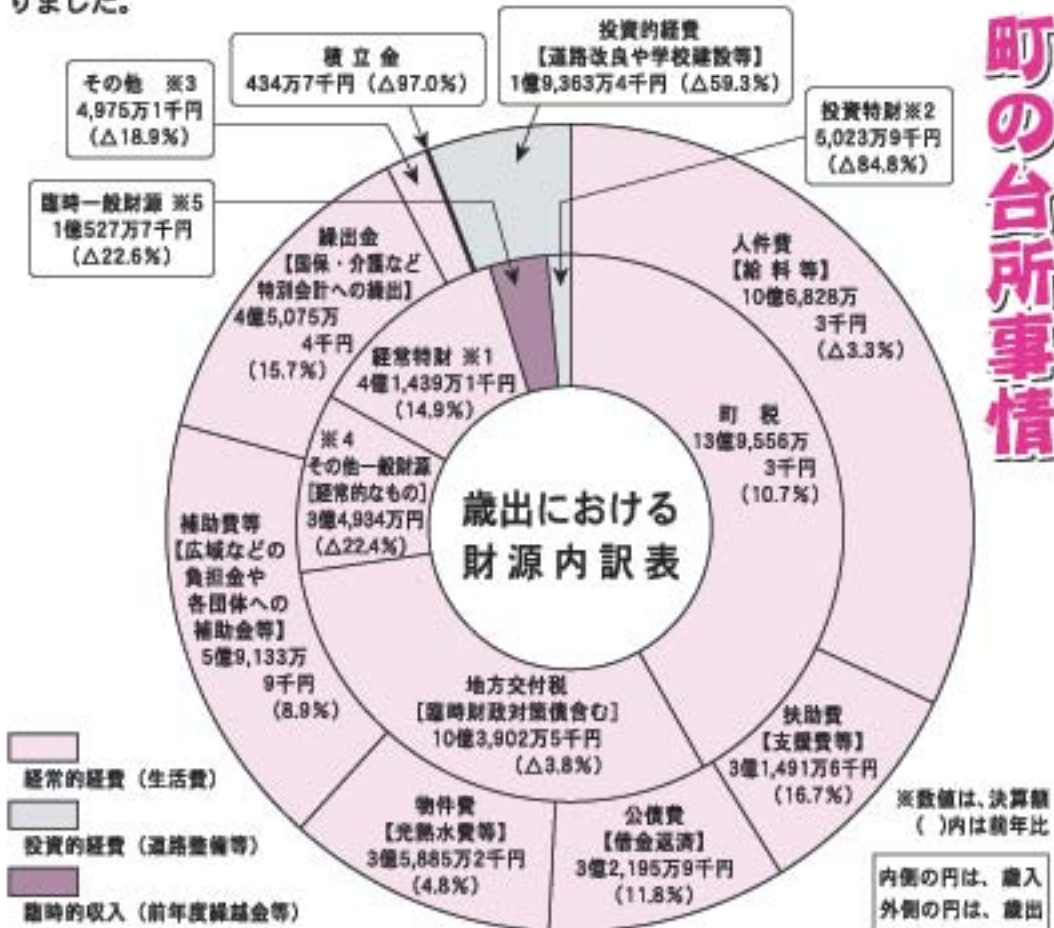


町の財政状況をお知らせします。

平成19年度一般会計決算

一般会計決算額は、歳入35億1,568万円(前年度比△6.9%)、歳出33億5,383万5千円(対前年度比△7.3%)となり、実質収支(歳入から歳出を差し引いた額から翌年度繰越額を控除したもの)は1億6,184万5千円となりました。



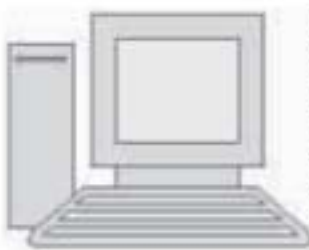
町の台所事情

町の予算がどのように使われているのかを町民の皆さんに知っていただくため、財政状況の公表を行います。今回は、9月定例議会に上程されました平成19年度決算状況をお知らせします。

- ※1 経常特財・・・国・県支出金や使用料・手数料等で、人件費・扶助費・物件費・補助費等・繰出金などの経費に使うために収入されるもの。
- ※2 投資特財・・・国・県支出金や地方債等で道路整備や学校整備などの経費に使うために収入されるもの。
- ※3 その他・・・道路維持補修費や、基金への積立金のほか九十九里地域水道企業団への出資金等の合計。
- ※4 その他一般財源・・・道路占用料や預金利子のほか、地方譲与税・利子割交付金・配当割交付金・株式等譲渡所得割交付金・地方消費税交付金・ゴルフ場利用税交付金・自動車取得税交付金・地方特例交付金・交通安全対策特別交付金・減税補てん債の合計。
- ※5 臨時一般財源・・・前年度繰越金や特別会計繰入金など臨時的な一般財源を合わせたもの。

決算の概要

平成19年度決算は、歳入歳出とも前年度に引続き減少となりました。これは、農村総合整備事業が平成18年度で終了したことによるものです。歳入では、税源移譲により税収が増加したものの、所得譲与税の廃止や地方交付税(臨時財政対策債含む)等の減少により、毎年経常的に入る一般財源総額は、減少いたしました。歳出では、前年度に引続き19年度も職員の退職に伴う新規採用を抑制したため、人件費では、3千7百万円の減少となっているものの、扶助費4千5百万増、公債費3千4百万増、補助費等4千8百万増、繰出金6千1百万円増となり、町の事務改善等では削減出来ない経費が大幅に増加するものとなりました。このため、財政調整基金を取崩し財源不足を補っています。今後も、扶助費や公債費など義務的経費の増加が見込まれますので、より一層の経費削減や財源確保に努め、健全財政を目指すことに住民福祉の向上を図って参ります。



19年度実施の主な事業

道路新設改良事業	5,365万2千円
道路維持事業	1,831万0千円
一宮小学校崖・土手改修事業	3,605万7千円
小中学校非常勤講師配置事業	915万5千円
外国語指導助手配置事業	421万9千円
住民検診等各種予防事業	4,232万3千円
障害者福祉事業	1億3,107万1千円
保育所等運営事業	2億7,716万1千円



改修された一宮小学校の校庭崖

経常的経費の推移



経常的経費の増加により財政状況は悪化

経常的経費とは、毎年継続して固定的に支払われる経費で、おおまかには人件費・扶助費・公債費・補助費等・繰出金(臨時的繰出は除く)・物件費・維持補修費をいう。

この経常的経費の増加は、財政構造を悪化させる大きな要因である。

このため、事務事業の見直しを図り物

件費や人件費の抑制に努めているものの、借入金の返済である公債費や法令に基づき町負担が義務付けられている扶助費・繰出金に加え、長生病院負担金の増加など、町の事務改善では節減できない経費が大幅に増えたため、財政硬直化が進むこととなりました。

財政用語の解説 ()内は家庭に例えると

人件費

・職員給料のほか、議会議員や各委員報酬など。

扶助費 (お爺さんお婆さんの介護費用)

・社会保障制度の一環として、最低限の生活を維持するために支払われる経費。

公債費 (ローンの返済金)

・学校建設や道路整備等のため借入れた資金の返済費。

物件費 (電気・水道代や食費等の生活費)

・光熱水費や通信運搬費、委託料、使用料など消費的な経費。

維持補修費 (家や車の修理費)

・公共施設や道路の効用を保全するための経費。

補助費等 (区費や慶弔費・保険料等)

・各種団体への補助金や広域市町村圏組合等への負担金のほか保険料など。

繰出金 (子どもへの仕送り)

・国民健康保険や老人保健、介護保険、農業集落排水事業など特別会計へ支払われる経費。

投資的経費 (家の新築費用等)

・学校建設や道路整備等その効果が資本形成となるために支払われる経費。

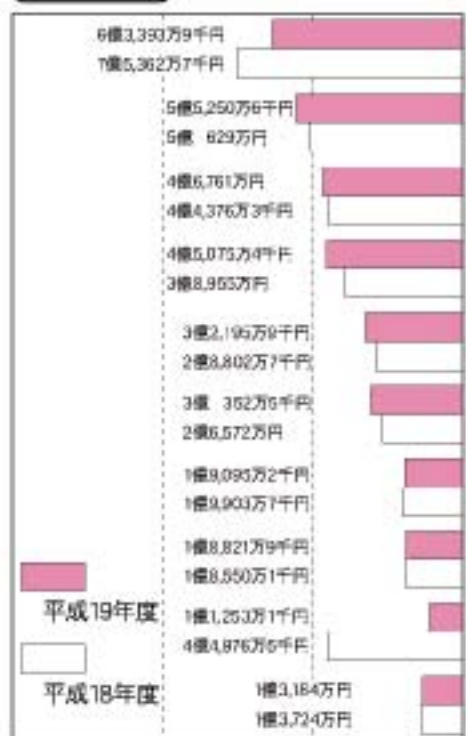
一般会計の目的別決算状況

歳出

決算額：33億5,383万5千円

歳入

決算額：35億1,568万円



歳入歳出の 主な内容

歳入

町税は、税源移譲により、町民税が1億1千1百95万2千円と大幅な増加となり、町税全体では1億3千5百17万6千円の増となりました。

地方譲与税は、所得譲与税(税源移譲)での暫定措置の廃止により、8千1百57万円の減少となっています。

県支出金は、農村総合整備事業(2億5千8百83万円)の終了により、前年度に比べ2億2千7百12万円の減少となりました。

歳出

総務費は、財政調整基金への積立金(1億3千9百80万5千円)の減少により、前年度に比べ1億1千9百68万8千円の減少となりました。

民生費は、児童手当の改正や障害者への介護給付費の増加、保育所の空調設備設置などにより、4千6百21万6千円の増加となりました。

農林水産業費は、農村総合整備事業(3億4千3百93万1千円)の終了により、大幅な減少となりました。

諸支出金は、老人保健の医療費の増加により、1千7百71万1千円増、介護保険では、介護サービス利用者増に伴い給付費が増加し1千9百32万6千円増、農業集落排水事業は、管路工事の実施により、2千74万4千円増など特別会計への繰入金全体では、前年度に比べ6千1百20万4千円と大幅に増加いたしました。

税負担の内訳

町民1人あたり
11万3,626円

1世帯あたり
30万2,791円



町税の内訳

13億9,556万3千円
(対前年比1億3,517万6千円増)

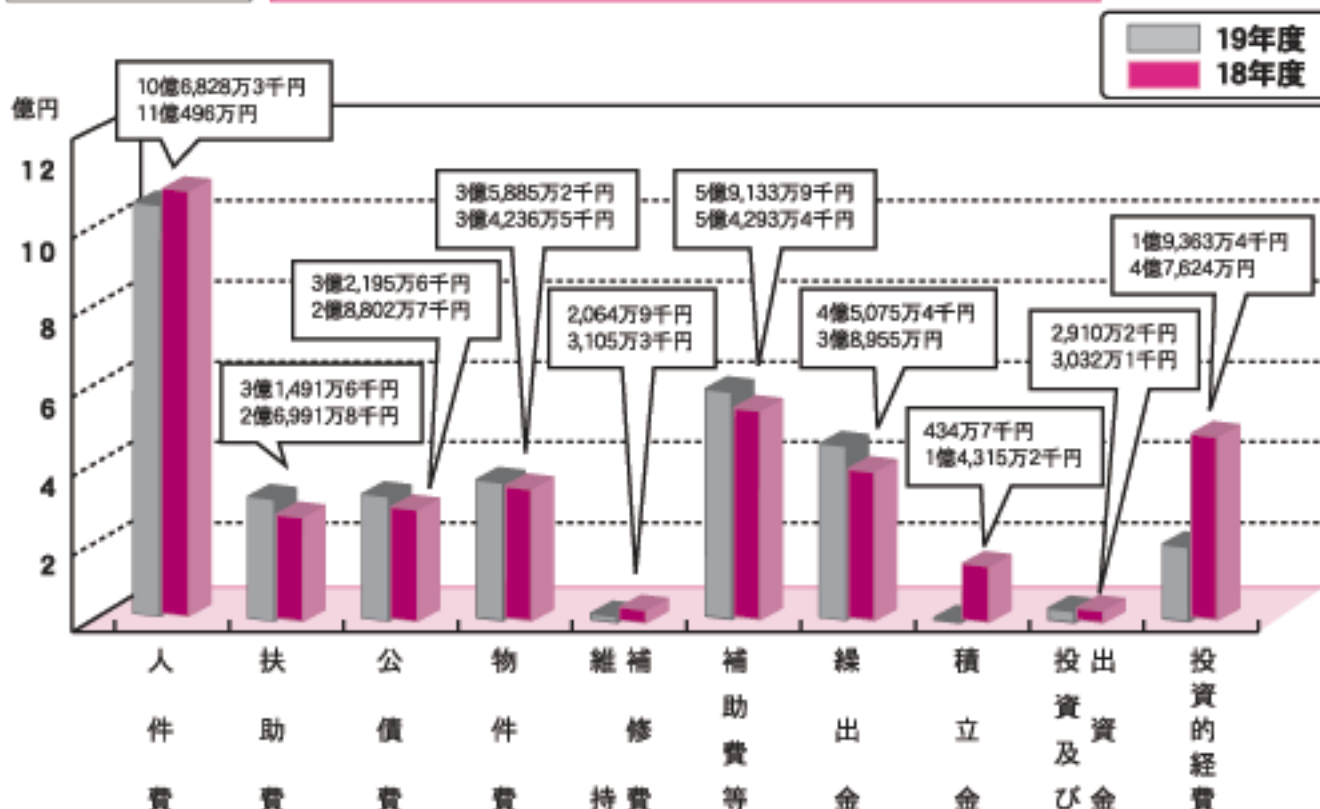


町税の状況

注1 税源移譲とは？
納税者が国へ納める税を減らし、都道府県や市町村に納める税を増やすことで、国から地方へ税源を移すこと。

性質別経費の決算状況 (一般会計)

金額欄の上段：平成18年度
下段：平成19年度



◆性質別経費の 主な内容

人件費は、職員の退職に伴う新規採用者の抑制により、前年度に比べ3千6百67万7千円(△3.3%)の減となりました。

扶助費は、障害者への介護給付や児童手当の改正、乳幼児医療費の助成対象年齢の拡大などにより、前年度に比べ4千4百99万8千円(16.7%)増となりました。
公債費は、元金償還額の増加により、3千3百93万2千円(11.8%)の増となり、今後も増加していく見込みです。

物件費は、税の評価替えに伴う不動産鑑定料など一時的な経費の増加により、前年度に比べ1千6百48万7千円(4.8%)の増となりました。

補助費等は、広域市町村圏組合等負担金の増加により、前年度に比べ4千8百40万5千円(8.9%)の増となりました。

繰出金は、老人医療費や介護給付費等の増加に加え、農業集落排水事業の管路工事の実施による繰出金の増加など、全体では前年度に比べ6千1百20万4千円(15.7%)の増となりました。

積立金は、財政調整基金積立金の減少により、前年度に比べ1億3千8百80万5千円減と大幅な減少となりました。

投資的経費は、一宮小学校の崖改修工事等あるものの、農村総合整備事業の終了による、減少が大きく、前年度に比べ2億8千2百60万6千円(△59.3%)の大幅な減となりました。

◆経常収支比率は

92・6%

経常収支比率は、財政構造の弾力性を測定する比率として使われるもので、義務性格の経常経費に対して、町税、普通交付税を中心とする経常一般財源がどの程度充当されているのかを表すものであり、比率が低いほど弾力性に優れているものであります。

当町の数値を見ますと、前年度87.6%から本年度92.6%で、5.0%悪化したしました。

今後は、公債費の増加が見込まれるなど、財政硬直化が益々進行していくことが予想されますので、より一層改善に向けて努力して参ります。



子どもたちは、すやすやお昼寝(遊戯室に空調設備を設置)

■ 町債の残高状況

(町の借金) (単位：千円)

区 分	19年度末残高	18年度末残高	対前年度増減
一般会計債	3,776,711	3,836,304	△ 59,593
特別会計債 (農業集落排水事業)	691,324	716,709	△ 25,385
合 計	4,468,035	4,553,013	△ 84,978

■ 基金の残高状況

(町の貯金) (単位：千円)

区 分	19年度末残高	18年度末残高	対前年度増減
財政調整基金	511,205	547,380	△ 36,175
減債基金	138	137	1
土地開発基金	58,022	58,006	16
庁舎建設基金	192,133	191,334	799
福祉振興基金	79,970	114,878	△ 34,908
教育奨励基金	208	241	△ 33
公共公益施設等 整備改修基金	553	551	2
義務教育施設 整備基金	7	6	1
上総一ノ宮駅周辺 環境整備基金	134,808	134,316	492
計	977,044	1,046,849	△ 69,805
国民健康保険基金	3,791	23,691	△ 19,900
高瀬療養費貸付基金	3,179	3,173	6
介護給付費準備基金	34,773	31,048	3,725
一宮荘運営基金	65,000	71,000	△ 6,000
農業集落排水 事業基金	30,552	30,452	100
計	137,295	159,364	△ 22,069
合 計	1,114,339	1,206,213	△ 91,874

■ 債務負担行為の残高状況

(単位：千円)

区 分	19年度末残高	18年度末残高	対前年度増減
一般会計	297,040	340,063	△ 43,023
特別会計 (農業集落排水事業)	15,678	19,220	△ 3,542
合 計	312,718	359,283	△ 46,565

債務負担行為とは？

将来、一宮町が経費を負担することを約束したもの。

町債残高は、この数年増加の一途であったが、ようやく減少となった。しかし、平成20年度では東浪見小学校の大規模改修事業による新規の借入も見込まれるので、一時的な減少と注しないよう、今後の償還等にも注意を払いながら計画的な事業執行により、町債残高の抑制に努めて参ります。

債務負担行為残高については、順調に減少してきています。

町の負債は減少

平成19年度特別会計の決算状況

() 内は前年比

会 計 名	歳入決算額	歳出決算額	歳入歳出差引額
国民健康保険事業	12億7,189万7千円 (0.7%)	12億4,698万4千円 (2.1%)	2,491万3千円 (△39.4%)
老人保健	11億3,413万2千円 (△1.8%)	10億9,433万円 (△1.9%)	3,980万2千円 (1.4%)
介護保険	7億4,126万2千円 (10.6%)	7億2,259万8千円 (10.5%)	1,866万4千円 (15.4%)
一宮荘	1億72万9千円 (△4.1%)	9,225万4千円 (△4.6%)	847万5千円 (2.7%)
老人福祉センター	2,277万8千円 (13.9%)	2,231万7千円 (13.8%)	46万1千円 (23.3%)
農業集落排水事業	1億2,531万8千円 (20.1%)	1億1,620万7千円 (16.9%)	911万1千円 (85.4%)
合 計	33億9,611万6千円 (2.4%)	32億9,469万円 (2.7%)	1億142万6千円 (△7.9%)

平成20年度上半期の執行状況

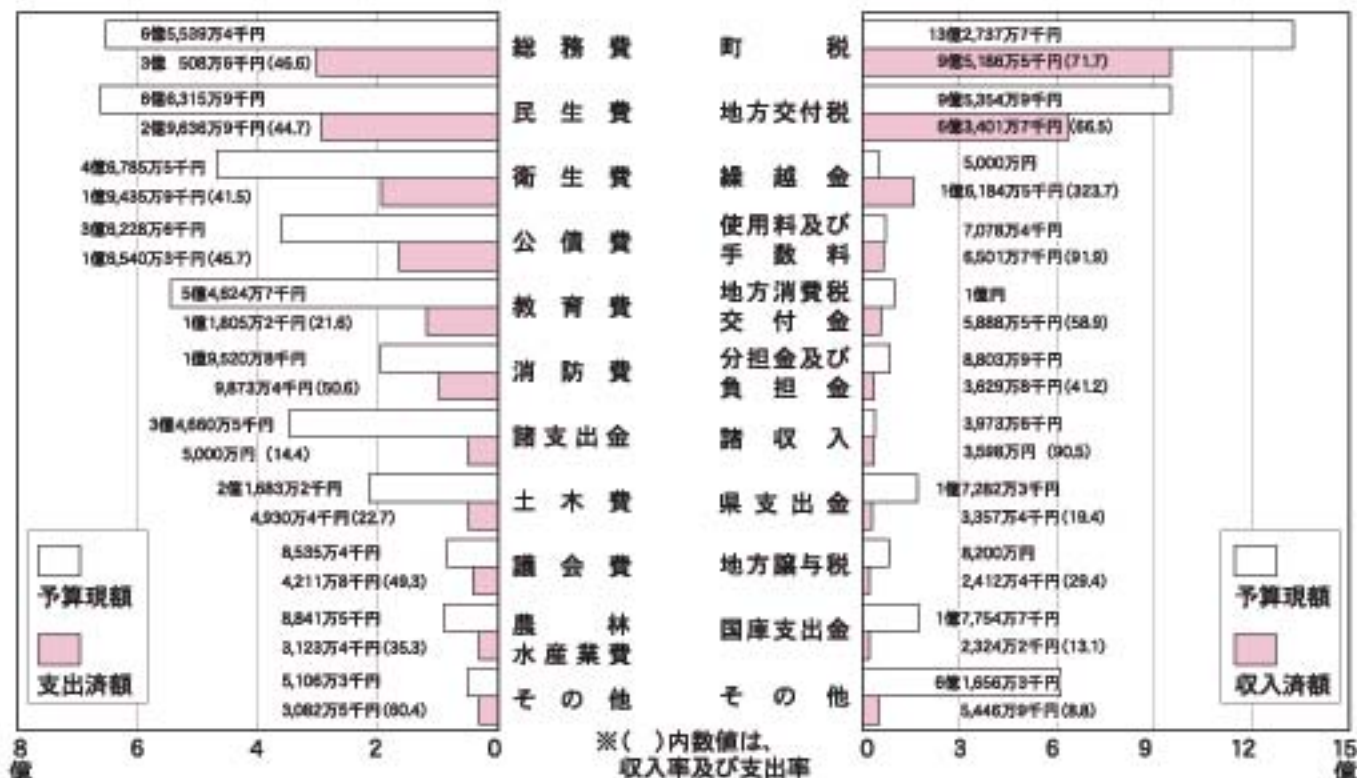
歳 出

一般会計

歳 入

予算現額 36億7,841万8千円
 支出済額 13億8,148万4千円
 支出率 37.6%

予算現額 36億7,841万8千円
 収入済額 20億7,931万6千円
 収入率 56.5%



特別会計の執行状況

会計名	予算現額	収入済額		支出済額	
		収入済額	収入済比率	支出済額	支出済比率
国民健康保険事業	13億6,467万8千円	4億6,446万6千円	34.0%	4億9,750万円	36.5%
老人保健	1億5,650万3千円	1億5,030万4千円	96.0%	9,583万8千円	61.2%
介護保険	7億6,799万1千円	3億2,207万3千円	41.9%	3億1,022万2千円	40.4%
後期高齢者医療	1億3,701万8千円	4,803万9千円	35.1%	2,856万8千円	20.8%
一宮荘	9,441万円	4,039万6千円	42.8%	3,817万1千円	40.4%
		1,046万2千円	47.7%	1,009万1千円	46.0%
老人福祉センター	2,191万5千円	3,475万2千円	33.8%	4,026万9千円	39.1%
農業集落排水事業	1億289万4千円	10億7,049万2千円	40.5%	10億2,065万9千円	38.6%
合計	26億4,540万9千円				

※会計によっては、収入額の不足がありますが、会計相互間の繰り替え運用で対応をしています。

**上半期は
順調な予算執行**

平成20年度一般会計予算の上半期執行状況は、予算現額36億7千841万8千円に対し、収入済額は20億7,931万6千円、支出済額は13億8,148万4千円、収入率は56.5%、支出率は37.6%の収入率と支出率となっています。また、事業の完了したもののや契約済みのものは、16億4,337万9千円、44.7%の執行率とな

り、うち支出済額は、13億8千1百48万4千円で37.6%の支出率となりました。
 歳入歳出とも計画どおり順調に進んでおりますが、道路整備事業や排水路整備などは農作業等に支障が無いよう農閑期である10月以降に事業が集中いたしますので、ご迷惑をおかけ致しますが、ご協力をお願いいたします。